（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4391200039		
法人名	有限会社　真和会		
事業所名	有限会社　真和会　ファミリー倶楽部		
所在地	熊本県上天草市松島町合津1068-1		
自己評価作成日	平成24年3月12日	評価結果市町村受理日	平成24年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　NPOまい
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	平成24年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の方は何だかの疾病をもたれているので、その疾患が悪化しないように体調管理や、状態の把握には特に気をつけ、又主治医との連絡が直ぐとれ連携が取れているので、利用者の家族の方も安心しておられる。利用者の方にも家庭生活の継続のように食事時間にも会話しながら笑いがでる支援ができ、居心地の良い場所作りができている。利用者の方も自室より食堂で他の入居者の方とお喋りしながらテレビを観られている時間が多い。
開設時より、朝夕継続しているリハビリ体操で、身体の低下防止にも繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

かかりつけ医や訪問看護との医療連携で、健康管理や機能訓練が行われ利用者の機能維持・向上に繋がっているようです。記録等も丁寧にされ、代表者と職員の利用者情報の共有が密に行われています。職員それぞれが利用者の1日の目標を設定し、思いや意向の把握からサービス内容の具体的な解決策になるような介護計画を作成することを目指されたばかりです。その取組がより一層のサービス向上に繋がることを期待します。職員の移動がなく、利用者の顔ぶれの変化があまりなく、又、健康管理やリハビリで機能を維持していることが落ち着いた毎日になっていることでしょう。今の安定した生活状態の中で、外出支援や生活リハビリなどを含め今後どういった働きかけをするかなど、職員全員で検討されることも大切です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人が暮らしてきた生活を大切にし、その人らしい生活がおくれるように理念をつくり、日々の生活の支援を行っている。	開設当初から変わらない理念がより浸透するように掲示され、ミーティングにおいても、理念を念頭にいれ、「何もかもしてあげるのがいい介護ではない、その人のレベルに合わせて見守りを中心に最初から手を出さずに」と話しあわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りごとなど、行事の案内や招待があり、参加し交流に勤めている。	町内会に入り資源ゴミの回収等への職員参加や、地域行事への参加、近所の方とのお付き合い等、交流が深まってきているようです。	公民館の新たな取り組み等も地域の事業所として協力が求められているようです。事業所の関わりや協力がより一層の地域との日常的交流や地域貢献になることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症の理解をしていただくために、活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月の1回の開催では、サービスの実際等やの他の取り組み等を報告し、委員の方からはいろいろな意見をいただいたり、アドバイスをもらいサービスの改善や向上にいかしている。	地域行事にもっと参加したいと提案され、老人会の企画内容に「もっと高齢の方が参加できるものを考えたい」と返答を得るなど、利用者参加型が多くなりサービス向上に繋げたいと考えられています。防災関係の市町村の対応状況等も地域の方と共有できる機会になっているようです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度などの分からないことは、担当者に聞いたりする事はあり、職員の方も気軽に答えてはくださる。	運営推進会議開催の際は市町村担当者の参加が必ずあっており、連携はスムーズにとられているようです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で、学んできた事をみんなに周知し、取り組んでいる。	身体拘束は体の拘束だけでなく、言葉の暴力や態度の暴力等、様々な事が身体拘束になるということを、職員全員が理解するよう研修会等取り組まれています。行動制限せず寄り添い見守る事で、利用者の方が落ち着かれたケースもある様です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止等はミーティング等の勉強会で、学び絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもいない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止等はミーティング等の勉強会で、学び絶対ないように注意を払い、防止に努め、もちろん起こってもいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には利用者、家族等には入居に際しての説明をし、不安や疑問点を尋た上で、理解や納得してもらってから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けてないが、日頃から不満や苦情を言えるような雰囲気にし、相談にのりそれらを運営に反映できるように努力している。	毎月の請求書と一緒に利用者状況の報告等を行い、面会時等意見を聞くようにはしているが、家族からの意見が少ないと認識され、次年度にファミリー倶楽部独自のアンケートを取り、意見を聞く機会を増やしたいと検討されています。	ファミリー倶楽部独自のアンケートが利用者・家族に分かりやすく、返答しやすいものになり、多くの意見を頂くことができるといいですね。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや職員の交流会で機会を設け反映に生かしている。	日常的に又、ミーティング等で管理者が意見を聞く機会をもたれたり、報告会には職員が交代で1対1で代表者と話す機会もあり、全体会で反映するようにされています。日常的に話し合うことで、光熱費等の節約等も職員全員の意識付けになっているようです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいような環境整備ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人内の研修発表を設け、それに対し自己研修や、グループ研修の機会を作り、職員の育成や研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回の同業者との勉強会を開催し、その時お互いの活動報告や、交流が得られ開催を通じサービスの質を向上させていく取り組みに生かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談はなかなか聞かれないが、行動や仕草で不安なこと、求めているいるこを観察し受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時の施設見学等から、家族の話を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にこられる時は、直の入居希望がほどんどで、入居できる時は入居しもらう事ができるが、その他は今利用できるサービスの紹介などを行た、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の協力が必要な時は、家族の方の協力を得て、家族の方と一緒に利用者の方を支えていく関係を努力して、築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、些細なことでも今までなかったこの出来事や、職員と楽しく会話されたことなどを話したりして、良い関係が築いていけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人などには関係が途切れないように、ホームに案内したりしている。	グループホームでの新たな馴染みの関係支援に努められ、利用年数が永い方も多く、職員や利用者同士の馴染みの関係が深くなっているようです。	今の状態で落ち着いておられる利用者の方が多い中で、馴染みの関係を引き出すための働きかけを職員全員で検討されることも大切です。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は上手くできているが、たまに口喧嘩が起こるがその時は孤立させないよう話を聴き、支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、どうされているか近況を電話で尋ねたり、家族に合ったりしてつきあいを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らし方や希望の意向を、本人又は本人からの意向が困難の場合は家族等からの把握に努めている。	ケアプラン作成時に家族からの聞き取りや、生きてきた様を考慮しながら思いや意向を再確認するようにされ、本人の思いを1日の目標にしようとミーティングで話し合い、共有するように取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人から、又は家族から今までの経過や利用してこられたサービス機関から情報などで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、一人ひとりの日々の生活を観察し、総合的に把握ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画を作成しそれに基づいて、職員、家族等と話し合い、利用者本位の計画に作成している。	担当職員が一人一人を把握し、理解するように努められ、ミーティングで共有した思いや意向をもとに介護支援専門員である管理者がアセスメントからケアプラン、モニタリングを基本的には6ヶ月毎に、状況に応じて随時見直すようにされています。	今後、介護計画内容に「何をどうするか」と1日の目標を設定し、各担当者による介護実践とういう形で取組むよう検討されています。その取組がより充実し利用者の方の満足度向上に繋がることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気付き等の記録は残し情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状況に応じて、母体の医院に直入院して治療ができたり、訪問看護の利用ができ、柔軟な支援ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問ボランティアなどの協力はあるが、その他の機関との協力ができてない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得が得られた主治医との連携が常にとれるようにできていて、適切な医療が受けられるような体制で支援している。	かかりつけ医の2週間に1回の訪問診療や緊急時の往診等連携がとられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	掛かり付け医院との契約で看護師の訪問があり、日常の健康管理や医療活用の支援はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は常に病院関係者との情報交換や相談したり連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に向けた方針があり、重度化した場合は、家族や主治医と方針の話し合いをし、全員で方針の共有ができるように努めている。	医療連携がとられ、家族等との話し合いのなかで、重度化や、終末期の対応が検討され、看取りも行うよう取り組まれています。医療連携が密なことで、職員の方針共有にもなっているようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の手順をつくり、全職員が慌てず対応できるよう全体ミーティング等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を遂行し、又地域の方の緊急連絡網を作成し協力が得られるような協力体制を築いている。	避難訓練が行われ、ファミリー倶楽部の利用者であることが、地域の方に解って頂くためにも、名札が準備され避難の際は掛けるように取り組まれています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳やプライバシーを大切にして対応に心掛けに気をつけ、又記録等の取扱いにも十分注意をはらっている。	居室には必ず本人に声かけしてから入室し、居室を片付ける時は本人と一緒にするようになど、対応等に心がけておられます。又、プライバシーに関する勉強会等に参加し理解を深めるよう取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けの介護や、自立を阻害するような介護はしないように注意をはらって行うよう話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方には疾患で朝起きられない方がおられるが、その時は無理に起こさないで、起きてこられたときに朝食などえを摂ってもらうなどと、その人に会わせたペースで支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどは、できない人には支援を行い、理容、美容等も本人の望む店にいけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人のできる範囲の手伝いをしてもらいながら、楽しく食事ができるように配慮し、また食事中も職員とや利用者同士が会話しながら食事が摂れている。	できるだけ自分で食べることができるよう、食事の時間は見守り重視で支援され、残量等を確認し、食材等を検討されています。旬の食材のツワの皮剥きや、誕生会のお赤飯、季節行事の際の弁当等普段と違った楽しみも支援されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立をもとに調理を行い、摂取量も一人一人の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は、自分で歯磨きをしてもらい、介助が必要な人は支援して毎食後必ず口腔ケア―をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でできられる人には転倒などに目配りなどに気をつけ、支援が必要な人にはさりげなく声かけを行い、失敗がないような支援ができるよう努力している。	一人一人の排泄パターンを把握し、早め早めのトイレ誘導をすることで、失禁等を少なくし気持ちよく排泄ができるよう取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで、個々の排便がスムーズにいくように支援し頑固な時は、主治医の指示のもとで下剤を服用してもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日など関係なく自分から入浴を希望される方には、入浴してもらい、意志の表現がな人には職員が声えかけを行い、入浴ができるように支援している。	2日に1回を基本とした入浴支援をおこなうようにされ、入浴剤や季節の行事湯等楽しむことができるよう取り組まれています。身体状況で浴槽内に入れない方はシャワー浴等で対応されています。	身体状況で湯船に浸かれない方もおられるようですが、年月の重なりと共に浴槽をまたぐ力等も衰えてくる方もおられることでしょう。湯船にゆったり浸かる事も楽しみのひとつと思われます。今後も介護スキルの向上を図られ入浴を楽しむことができる支援を深められることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分が休みたいときには、自室に行かベッドで休まれているが自分でできない方にはその方の状況を見て休息ができるように自室への移動介助などを行うなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方を把握して、変化時には主治医への連絡が取れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌がすきな人には一緒に歌ったり、テーブル拭きなどのその人のできる事の役割をしてもらったりして、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	声掛けを行い、希望に添って出かけられるように支援している。また家族と遠方へ外出される事もある。	イベント外出は全員で楽しむよう取り組まれています。散歩等は本人の希望に添いながら外出支援に取り組まれていますが、直前になると外出を断られる利用者の方もおられ、管理者は「何でかな、何かな」と考えておられるようです。	管理者の「何でかな」といった考えが、今後深まり、利用者の外出したい、チョットそこまででも出てみようかといった気持ちが大きくなるとなるといいですね。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金を所持されていて、希望があれば一緒に出かけて買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があれば、かけ電話で話してもらったり、手紙が届いたら返事を書かれるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不愉快な音や光はないように配慮されていて、食堂などには生活観が感じられるように飾り物をしたりして、居心地よく過ごせるように工夫している。	デイルームが中心にあり、玄関も広く、入るとすぐに外の景色が見える日当たりの良い空間やベランダがあり、畳の間からも外の景色が見え居心地のよさを演出しています。廊下は間接照明が、壁には利用者の作品や移り変わりがわかる写真の掲示がされ生活感が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や好みの者を持ち込まれたりして、本人が好きなような使い方をされている。	居室入り口は実習生と一緒に作られた表札や、花の絵が飾ってあったり、居室内もベッドやクローゼットは備え付けてありますが、個別のタンス等それぞれの利用者に添った居室作りを支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居場所を確保し、自分なりに自由に過ごされたり、利用者同士の語らいには食堂にきて過ごされている。		